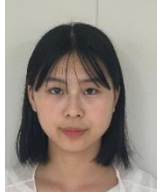


2025年度国際交流プログラム体験記（中） 8月13～23日 韓国・大邱保健大

新しい学びと出会い 充実の日々

リハビリテーション学科理学療法学専攻3年 林 桃花さん



新鮮だった「水治療法」体験／英語で理解する必要性を痛感

大邱保健大学での研修は、毎日が新しい学びと出会いにあふれ、充実した時間が瞬く間に過ぎていくように感じられました。研修期間中には、フィリピンの学生も同じ時期に滞在しており、学科別の授業を共に受講したり、病院見学に参加したりと、私的な旅行では得られない貴重な経験を重ねることができました。また、韓国の学生やフィリピンの学生、そして先生方も優しく接してくださり、言語の壁がある中でも明るく温かい雰囲気の中で研修を行うことができました。

今回の研修を通じて韓国の医療について学ぶことができ、特に印象に残ったのは大学の授業の一環として体験した「水治療法」です。実際にプールには入り、様々な形の道具を用いながら水中で運動やトレーニングを行うもので、日本では学んだことがなかったため非常に新鮮でした。また、フィリピンの学生と共に授業を受ける中で、英語による会話や授業形式が多く取り入れられており、理学療法学の知識も筋肉の名称や身体の運動方向を英語で理解する必要性を強く実感しました。

さらに、2日間に渡り韓国の病院を見学・体験する機会もいただきました。3つの施設を訪

問し、ゲーム感覚で歩行練習を行う機器やCPMと温熱療法を組み合わせた物理療法などを実際に体験しました。これにより、韓国の新しい知識を得るとともに、日本との共通点を見つけることができ、自分の学びを広げる大きな一歩となりました。

また、この10日間を通じて、コミュニケーションの幅が広がったことも大きな収穫です。多くの時間をフィリピンや韓国の学生と共に過ごし、英語や韓国語で会話を交わす中で交流を深めることができました。日常生活で日本語以外を使う機会はこれまで多くありませんでしたが、実際に会話を重ねる中で想像以上に楽しく、積極的に取り組むことができました。

今回の研修で学んだ医療制度や国際的なコミュニケーションの経験を、今後の学びや活動に生かしていきたいと考えています。そして、日本のリハビリテーションの知識を深めつつ、海外の技術や取り組みにも目を向け、視野を広げていきたいと思います。最後に、大邱研修を運営してくださった先生方、ならびに大邱でお世話になった皆様に心より感謝申し上げます。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



実際にプールに入って行う水治療法の授業風景



研修の合間に足を運んだトッポギミュージアムで記念撮影

緊張の57人 総合型選抜に挑む

令和8年度入試

2026年度入試のトップを切り、総合型選抜が11日（土）、本学で行われました。受験者はエントリーを通過した57人で、午前中は小論文、午後からは個人面接とプレゼンテーションに臨

みました。当日は35度近くまで気温が上がり10月とは思えない暑さでしたが、欠席者・体調不良者もなく無事に終了しました。（入試・広報課）

【今後の入試日程】

- 11月1日（土）総合型選抜（社会人）、大学院推薦・社会人選抜Ⅰ期、公衆衛生看護学専攻科・助産別科推薦選抜
- 11月22日（土）学校推薦型選抜（指定校、公募、離島枠）
- 12月6日（土）公衆衛生看護学専攻科・助産別科一般選抜
- 1月10日（土）認定看護師教育課程、特定行為研修課程
- 2月4日（水）一般選抜（一般、共通テスト利用・前期）
- 2月21日（土）大学院一般・社会人選抜Ⅱ期
- 3月6日（金）一般選抜（共通テスト利用・後期）

グループ内での自己紹介の進行役をじゃんけんで決める学生たち



本年度のチーム医療演習が始まり、9日（木）、50周年記念館と3110講義室Mでオリエンテーションが行われました。専門分野の異なる学生同士がグループ（13～14人）を組んで症例検討を行うことにより、相手の考えや立場の違いを理解し、チーム医療を行うために必要な相互理解を学ぶことを目的に実施されます。

オリエンテーションでは、川口辰哉教授が演習を通して達成してほしい目標や今後のスケジュールを説明。学生たちは熱心にメモを取り、これからの演習に備えて準備を整えていました。その後、グループごとに分かれて自己紹介が始まると、笑顔でうなずいたり、拍手をしたりと緊張の糸がとけていく様子が見られました。

チーム医療演習は、全学科専攻の4年次生353人が5週間にわたって取り組み、最終回の11月6日（木）には50周年記念館と1300講義室Lでプレゼンテーションが行われます。（NL編集部）

尊い命に感謝を込めて

動物慰霊祭

実験や研究のために尊い命を捧げた実験動物を慰霊する動物慰霊祭が15日（水）、動物舎横の動物慰霊碑前で執り行われました。

竹屋元裕理事長・学長が「医学医療の研究のため貢献された諸動物の御霊の前に深く頭を垂れ、そのひとつひとつの御霊が安らかに昇天されますことをお祈りし謹んでご冥福をお祈り申し上げます」と慰霊の詞。学生代表の西村衣純さん（リハビリテーション学科理学療法専攻2年）が「実験動物たちの尊い命に報いるためにも真剣に勉学に励み、その犠牲の上に得られた知識を社会貢献のため最大限に活かすことに尽力する義務があり、またその命一つ一つに感謝をしなければなりません」と述べました。

その後、竹屋理事長・学長、動物実験委員長の中田聡教授、学生代表の西条世奈さん（同）が献花した後、教職員、学生たちも動物たちへの感謝の気持ちも込めて花を捧げ、冥福を祈りました。（NL編集部）



動物慰霊祭であいさつに立つ学生代表の西村さん

赤ちゃんポスト 法の観点から問題提起

「アカデミックスキルⅡ」で元高裁判事・河村さん



「アカデミックスキルⅡ」で、個人の尊重や幸福追求権など、憲法の考え方について話す河村さん

「このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」をテーマにした意見文作成を目指す全学必修科目「アカデミックスキルⅡ」（1年次生）。さまざまな視点からのアプローチが期待されます。9日（医学検査学科）と14日（看護学科、リハビリテーション学科）の授業では、アカデミックスキル支援センター上級指導員で元東京高裁判事の河村潤治さんが、憲法や刑法の観点から赤ちゃんポストについて論じました。

河村さんは、個人の尊重や生存権に関する憲法13条と25条を示し、赤ちゃんの生命を奪われない権利、母親の幸福追求権や生存権について説明しました。「ゆりかご」が匿名での預け入れを容認している

ことについては、「母親の赤ちゃん預け入れの心理的なハードルを下げ、嬰兒殺などの最悪の事態に至らせない方策」と説明。一方で、赤ちゃんの「出自を知る権利」との関係については、「赤ちゃんが将来、出自を知りたいという権利行使を困難にする匿名での預け入れまでもが、母親の幸福追求の権利として許されるだろうか」と、問題を投げかけました。

このほか、河村さんは刑法218条（保護責任者遺棄等）にも言及。学生たちは、社会現象と法律とを結びつけた河村さんの話を、興味深そうに聴き入っていました。

（アカデミックスキル支援センター 渡邊元生）

大学ってどんなところ？

西里小児童がキャンパス見学

熊本市立西里小学校の2年生15人と引率の教員2人、保護者2人が15日（水）、本学を訪れ、キャンパス内を見学しました。

これは、児童たちが生活科の授業で取り組んでいる「まち探検」の一環です。地域の様々な場所にグループで出向き、自分たちの住んでいる街について知ることを目的としています。

キャンパスに到着した児童たちを言語聴覚学専攻の松尾朗講師と4年次生3人がお出迎え。「どこでご飯を食べているの。給食はある」「どうしてこんなに大きいの」と学生たちにインタビューし、熱心にメモを取っていました。

最後に松尾講師から「みんな勉強頑張ってるね」というエールとともに、言語聴覚学専攻のキャラクターシールを渡されると、児童たちは嬉しそうに受け取り、「ありがとうございます！」と元氣よくお礼を伝えていました。（NL編集部）



「お昼ごはんはどこで食べるの？」と興味津々の児童たち



リサーチカンファレンス

「リサーチ」とは特定の課題やテーマに対して情報を体系的に収集・分析し、深い理解を得るために行う調査・研究活動のことをさします。また、「カンファレンス」とは、特定のテーマや業界に関心を持つ人々が集まり、情報交換や議論を行うことを意味しています。この、リサーチとカンファレンスを合わせ持った勉強会を医学検査の先生方が2023年1月よりキャンパステラスのコロシウムでスタートされました。

勉強会の最大の目的は、先生方が研究内容を共有し、お互いの刺激とすること。そこでは、さまざまな視点からの質問やアドバイスなど、活発な

意見交換がなされています。これまで、月に1回定期的開催されており、既に1年半の歴史を刻んでいます。

ピンと張り詰めた空気、発表後の止まぬ鋭い質問。そして的確な回答。研究を重ねた先生方の「当事者と共に多角的な視点から課題をとらえる」、「リサーチャー自身やその所属組織も変容を遂げながら取り組む」といった雰囲気が、このリサーチカンファレンス全体には漂っています。先生方の真摯なお姿に触れるたびに、とても頼もしい気持ちにさせられています。

週間行事予定（10月20日～10月27日）	
10/24（金）	臨地実習認定式（医学検査学科）、インフルエンザ予防接種
10/27（月）	私の部屋でランチを